



事務事業名	紙おむつ購入費助成事業	事務事業No.	10602000026	所属課	高齢福祉課
-------	-------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 在宅要介護高齢者に対して紙おむつ代を支給することにより、要介護高齢者及び介護にあたる家族の負担を軽減し、福祉と健康の増進を図ることを目的として開始した。また合併前は、現物支給、現金支給とまちまちであったが、平成19年度より支給方法を現金支給に統一した。また事務事業の見直しにより、平成21年度から介護保険特別会計に組み替えた。
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 3か月で6,000円の助成額でも、紙おむつを大量に購入しているため、経済的に助かっているとの意見がある。
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容  改革改善を行う

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性（この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 在宅の要介護者に対して紙おむつの購入費の一部を助成することは、高齢者福祉の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性（なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称） <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 要介護者が施設に入所し紙おむつを使用している場合は、介護保険制度において費用の一部の給付が受けられる。在宅の要介護者に対し、紙おむつの購入費の一部を助成して経費の軽減を図り在宅生活を支援することは妥当である。
	③成果の向上余地（成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？） <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 要介護認定者の増加に伴い、新規の該当者に対し助成を行うことにより、成果向上の余地がある。
有効性	④廃止・休止の成果への影響（事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？） <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 対象者の経済的負担が増えてしまう。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性（類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合）⇒ 具体的な手段、事務事業名 <input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 身体障がい者紙おむつ購入助成事業があるが、対象者が異なる。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地（成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？） <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 紙おむつ等の購入額に対して、1ヶ月あたりの助成限度額が上限2,000円であり、事業費の削減は助成限度額の引き下げにつながるため、これ以上の事業費の削減余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地（事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？） <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 支給対象者及び支給基準が定められているため、公平・公正である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ⇒	(2) 全体総括（振り返り、反省点） 要介護認定者の在宅生活を支援する目的で助成を行っているが、高齢化が進み新規該当者が増加しており、同時に在宅から施設入所となる方も増加している。このため、助成対象者数は横ばいである。介護者が高齢となり、買い物難民が増えているため、現在の現金支給から現物支給への検討も視野に入れるなど、事業内容についての見直しが必要である。																					
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input type="checkbox"/> 現状維持 （複数回答可） <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる	(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下			×																		
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 事業内容の見直しに当たり、好みの品目が選べないことなど、現物給付化のデメリットへの対応についても配慮すべきである。																						
(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ⑦ コスト削減優先度評価結果																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合） 確認欄 <input type="checkbox"/>
---	--